

(2) 実態調査等の実施状況

ア 大気、水域等の環境調査

ダイオキシン法に基づき、県では県域の汚染の状況を把握するため、調査地点を定め、大気、水質等の常時監視を行っています*7。土壌と地下水については、平成15～17年度の3年間で県域の廃棄物焼却施設等発生源周辺において調査を実施しています。

また、県では、大気と水質・底質については、県域の詳細な実態把握のため、常時監視地点を補完する地点において、平成15～17年度の3年間で調査地域を変えながら環境実態調査を実施しています。

これらの調査結果は次のとおりです。

(ア) 大気調査結果

全ての地点で環境基準を下回っていました。(→12ページに地図)

平成15年度大気調査結果（年4回測定の平均値）

【環境基準：年平均で0.6pg-TEQ/m³】

		地点数	平均（最低～最高）	環境基準超過地点数	備考
本 県	常時監視	20	0.063 (0.027～0.096)	なし	(図8)
	環境実態調査	7	0.044 (0.024～0.070)	なし	県西部を調査 (図8)
全国の調査結果		691	0.064 (0.0066～0.50)	なし	平成15年度一般環境
本県の過去の調査結果		195	0.051～3.3*		平成元～14年度

*：平成元～11年度はCo-PCBを含まず。

【参考】平成元年度からの調査結果（各数値は調査結果の平均値）（出典：県環境白書）

	元～2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
工業周辺地域	2.0	2.1	1.90	2.51	1.37	1.16	1.44	0.21	0.20	0.10	0.087	0.076	0.051
都市地域	1.5	1.3	2.22	2.45	0.36	0.49	0.57	～	～	～	～	～	～
バックグラウンド*	0.42	0.25	0.48	0.23	0.13	0.15	0.10	3.3	0.54	0.53	0.24	0.35	0.31

(イ) 水質調査結果

公共用水域の水質及び地下水ともに、全ての地点で環境基準を下回っていました。(→14ページに地図)

平成15年度水質調査結果（年1回測定）

【環境基準：年平均で1pg-TEQ/L】

		地点数	平均（最低～最高）	環境基準超過地点数	備考
本 県	河川	30	0.10 (0.042～0.60)	なし	10～12月に採取 (図10)
	湖沼	2	0.058 (0.054～0.061)	なし	6月に採取 (図10)
	海域（東京湾）	4	0.042 (0.041～0.042)	なし	8月に採取
	海域（相模湾）	1	0.041	なし	(図10)
	地下水	8	0.044 (0.041～0.061)	なし	7～8月に採取 (図12)
全国の調査結果		2,126	0.24 (0.020～11)	51	平成15年度公共用水域
本県の過去の調査結果		333	nd～2.0*		平成元～14年度

*：平成元～11年度はCo-PCBを含まず。

【参考】平成元年度からの調査結果（各数値は調査結果の平均値）（出典：県環境白書）

年 度	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
河川	nd	0.29	0.16	0.29	0.19	0.11								
湖沼	nd	—	—	0.11	—	0.13	0.11	0.059						
海域	nd	—	—	—	0.17	0.089	0.070	0.047						

※平成9年度まで検出されなかった (nd) のに、10年度以降検出されているのは、分析機器の精度が向上したことによるもので、必ずしも汚染が進んだということではありません。

*7 ダイオキシン法では、県、横浜市、川崎市、横須賀市及び相模原市がそれぞれの区域の環境調査を受け持つこととなっています（横須賀市については平成13年度から、相模原市については平成15年度から。）。ここでいう「県域」とは、これら4市以外の区域を指します。

(ウ) 底質調査結果

全ての地点で環境基準（平成14年9月1日から適用）を下回っていました。

平成15年度底質調査結果（年1回測定）

【環境基準：150pg-TEQ/g】

		地点数	平均（最低～最高）	環境基準超過地点数	備考
本 県	河 川	30	1.9 (0.15～13)	なし	10～12月に採取
	湖 沼	2	9.3 (0.51～18)	なし	
	海 域（東京湾）	4	5.7 (1.7～15)	なし	8月に採取
	海 域（相模湾）	1	1.9	なし	
全 国 の 調 査 結 果		1,825	7.4 (0.057～420)	9	平成15年度公共用水域

(エ) 土壌調査結果

平成15年度は、県東部及び県中央部の発生源周辺において実施しました。全ての地点で環境基準を下回ったほか、ダイオキシン法で追加的な調査が必要とされる値をも下回っていました。（→16ページに地図）

平成15年度土壌調査結果【環境基準：1,000pg-TEQ/g、追加的な調査が必要とされる基準：250pg-TEQ/g】

	地点数	平均（最低～最高）	環境基準超過地点数	備考
本 県 の 常 時 監 視	104	6.0 (0.028～29)	なし	8～10月に採取（図12）
全 国 の 調 査 結 果	931	8.5 (0～1,400)	1	平成15年度発生源周辺
本 県 の 過 去 の 調 査 結 果	147	0.0016～110*		平成10～14年度**

*：平成10～11年度はCo-PCBを含まず。

**：平成10～14年度は一般環境。

【参考】平成10年度からの調査結果（出典：県環境白書）

10年	11年	12年	13年	14年
0.087～8.6	0.037～5.5	0.0016～34	0.025～32	0.030～110

※平成10～14年度は一般環境把握調査を実施。

(オ) 水生生物調査結果

水生生物には環境基準が定められていませんが、環境庁（現、環境省）が全国で実施した「平成11年度公共用水域等のダイオキシン類調査結果」の水生生物の調査結果の濃度範囲内でした。

平成15年度水生生物調査結果

【環境基準なし、単位：pg-TEQ/g】

	地点数	平均（最低～最高）	備考
本 県 の 環 境 実 態 調 査	5	1.7 (0.43～3.9)	8～11月に採取
全 国 の 調 査 結 果	2,832	1.4 (0.032～33)	平成11年度
本 県 の 過 去 の 調 査 結 果	54	0.20～16*	

*：Co-PCBを含まない検体もある。

【参考】平成元年度からの調査結果（各数値は調査結果の平均値）（出典：県環境白書）

年 度	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
平 均 値	3.4	0.77	0.37	0.58	0.37	0.52	0.54	0.20	0.55	2.6	1.8	3.8	4.1	0.74
検 体 数	2	3	3	4	6	6	5	3	4	1	2	5	5	5

イ 今後の環境調査

平成12～14年度までの3か年で、県域を網羅的に調査しました。平成15～17年度には、この3年間の調査結果を踏まえ、継続して環境の実態を把握していくとともに、汚染の早期発見の対応を強化していきます。